

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800028		
法人名	医療法人 啓信会		
事業所名	グループホーム リエゾン萌木の村		
所在地	京都府城陽市寺田新池65-1		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2692800028-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

下肢筋力の低下をしないように座って出来る運動だけでなく、広い空間を使い生活の中に歩く時間を作るようにしている。地域密着型として地域で行われる催しに出来るだけ参加するようにしている。催しに参加する事で知り合いやご近所の方々に会うこともある。近隣の方から野菜等が届く事もあり、顔なじみの関係づくりに努めている。また、併設の事業所にサクソ演奏や銭太鼓、人形劇等のボランティアの来訪がある時は参加し関りが持てるようにしている。職員は散歩やドライブの他ご家族も参加して頂きランチ外出に出掛けたり、ホーム内でホームパーティーをする等のイベントの企画も行っている。またその日の希望でおやつを食べに出掛けたりもしている。ご家族の協力もあり外出や外泊にも出掛けられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、積極的に地域への事業所の認知度の向上と良好な関係性の構築に努め、町内会に加入し地域の防災訓練に職員が参加し、区民運動会を観に利用者とお出掛けしています。近隣の保育園児に事業所で歌の披露してもらったり、併設施設と合同で開催する行事に楽器の演奏や人形劇など多くのボランティアの来訪があり、利用者が地域の方々との交流を楽しめるよう支援しています。家族との繋がりを大切に家族の協力を得ながらホームパーティーや外食行事を行い、利用者が家族と共に楽しめるよう支援しています。職員同士で日々意見を出し合い協力しながら利用者の思いや希望を大切に、理念にそってみんなが笑顔で穏やかに過ごすことが出来るよう日々の支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「頼り 頼られ みんなで笑顔」を事務所前に掲示し、パンフレットにも掲載し、共有して実践に努めている。	職員間で意見を出し合い見直した事業所の理念は事務所入口に掲示し、職員の入職時にも理念に込められた思いを説明しています。自己評価で理念の達成状況について確認すると共に、年度末の会議で振り返りを行うことで理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会など地域のイベントに参加し交流している。また、コーラスやひよっこ踊り、サクソ演奏等ボランティアの訪問により地域との交流が図れている。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て、近隣の小学校で開催する区民運動会等の地域行事に利用者として出掛けています。事業所に保育園児の来訪があり歌の披露を楽しんだり、併設施設と合同で開催する楽器の演奏や人形劇など多くのボランティアの行事に参加することで、地域の方々との交流機会を出来るだけ作っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて情報提供できる場をもうけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回、民生委員や御利用者、家族、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催し、御利用者の状況や事故報告、行事報告等を行い意見交換や情報交換など行っている。	会議は2か月に1回家族や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等の参加の下開催し、活動報告や利用者の状況の伝達を行い意見交換をしています。地域の防災訓練の情報をもらい職員が参加したり、家族からボランティアの紹介をもらう等、会議を地域との交流やサービス向上に活かすように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて地域包括支援センターや市役所の職員と連絡を取り合っている。また、市職員が出席する地域密着事業所連絡会に参加し情報やアドバイスを頂いたり相談する等協力関係を築いている。	運営推進会議に市職員の参加があり意見交換を行っています。また、運営上の手続きや相談で市の窓口へ出向いたり、不明点の確認や質問を訪問や電話で行っています。市職員が出席する地域密着事業所連絡会に参加する等、行政との協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人内研修が行われており、ミーティング時に伝達し理解を深めている。玄関の施錠は行っているが、外に出たい等の希望があれば職員同行している。玄関以外の出入り口は開閉ができるようになっている。	年1回法人による身体拘束に関する研修に職員代表が参加し、事業所で資料を回覧するなど内容を伝達し知識を身に付けています。利用者の状態に合わせて職員間で支援方法を検討し拘束に繋がらない支援に努め、言葉かけによる制止等があればその都度注意しています。外出希望の利用者には職員が付き添って出掛けることで利用者の拘束感なく過ごせるよう努めています。	

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して学んだり、職員間の情報交換にて理解を深め、実践へと活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃり、相談など行っていたが、現在は対象者がいらっしゃらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者や家族へは、不安のないように時間をかけ十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には御利用者の日頃の様子を伝え、相談したり要望を聞いている。家族のアンケート調査を行い、現在集計段階である。	利用者の希望は日々の関わりの中で聞き、家族の意見や要望は運営推進会議やアンケート、来訪時等に聞いています。利用者の普段の様子を伝えて意見を得やすいように工夫し、個別の意見から夜間の支援方法を家族と一緒に検討したり、家族の要望から間食についての意見を取り入れる等、意見や要望をサービスや運営等に反映させるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや随時のカンファレンス、日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。	月1回を目安に実施するミーティングや随時カンファレンスを開催して職員の意見を聞いています。利用者の状態に応じて食事介助や支援の方法を職員間で話し合い検討して取り組む等、日々の支援に反映しています。また年2回を目安に行う個別面談や日々の中で随時職員に声をかけて意見を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度により自己目標管理シートを作成し年1～2回の面談の機会を設け、聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の情報提供を行っている。自己啓発の意識を持っている職員も多い。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議に参加し、意見交換を行っている。また、法人内の研修により交流が図られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所から1か月間はグループホームの生活に慣れて頂く事を目標とし、ケアプランに挙げ、本人の気持ちに寄り添い不安な気持ちを取り除けるよう、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時の面談で時間をかけ、家族の話を聞き取るようにしている。また、グループホームでの生活をわかりやすく説明するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込みの際に状態や状況を尋ね、入居が望ましいか他のサービスの利用の必要性も含め相談に乗るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を頼り頼られみんなで笑顔とし、御利用者にも役割担って頂き共同生活の場としての意識をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会をケアプランに挙げできるだけ面会に来ていただくようお願いしたり、面会時にご本人の近況報告や行事への参加の声かけを行っている。また月に1回家族参加可の昼食の外出かホームパーティーを企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚等の面会があり、居室や和室にて過ごして頂いている。自宅付近へドライブに出掛けたり、地域の行事に参加して馴染みの方と出会えるよう支援している。	友人や知人、親戚等の来訪時には居室に案内し椅子やお茶を出してゆっくり過ごせるように配慮し、来訪者の人数が多い時には和室を提供して過ごしてもらうこともあります。職員とドライブや馴染みの商店に買い物に行ったり、家族と外食や見舞い、墓参り等に出掛ける際には服装や薬等の準備を支援する等、馴染みの人や場所との関係の継続を支援しています。	

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、席の配慮をしたり、職員が間に入り交わられるような配慮も行っている。利用者同士のトラブル時には早期解決できるよう注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も困っている事等相談があれば受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談でご利用者や家族から生活歴や趣味、嗜好、意向等を聞き、情報を得ている。入居後は会話や様子等で職員が気づいたことを個人記録に記載し、随時カンファレンス等で思いの把握に努めている。	入居時に面談で利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、嗜好、思いや希望等を聞き家族にもシートに記入してもらい職員間で共有しています。入居後は日々の利用者との関わり合いの中で聞いた言葉を記録し、意思疎通が困難な場合でも様子や表情から思いを汲み取り家族へ相談したり職員間で本人本位に検討して希望や意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りを行い、入居日までに生活経歴表を家族に記入して頂き把握に努めている。その後生活の中で得た情報も個人記録に記載し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や状態の変化を個人記録に記載し、情報収集に努め、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は事前にご本人や家族の希望をたずね、アセスメントを行い作成する。毎月介護計画に対して全職員がご利用者全員のモニタリングを行っている。必要に応じて都度プラン見直しも行っている。	アセスメントを基に作成した介護計画は初回は暫定で立て1か月から3か月で見直し、その後は1年毎の見直しを基本とし利用者の状態に変化があれば随時見直しています。毎月モニタリングを行い見直し前には再アセスメントを実施し、家族の参加も依頼してサービス担当者会議を開催し、事前に聞いた医師の意見も反映して利用者の現状に即して介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアなど、個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。モニタリング時には再度個別記録を見直し、必要に応じてケアカンファレンスを行っている。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応していかなければならない場合が多く、問題点が浮上した時にはチームで解決に向けて対策を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会に入り、行事等を通じ参加し、馴染みの方と交流が持て楽しむ場がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に出来るだけ今までの医療機関継続を勧めているが、ご本人が当日拒否されたり、脳梗塞により半身麻痺となり受診困難となった為全員が往診対応となる。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか協力医に変更するかを選択してもらい、全員が月1回協力医の往診を受けて対応しています。専門医は家族の対応による受診を基本とし、緊急時は法人内の看護部門に24時間連絡が可能で必要な指示を受けています。併設の施設の看護師や協力医の訪問看護師による健康チェックを受け、利用者の状態や希望に応じて協力歯科の口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師やセンター内の看護師とも連携を図り適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看介護サマリーを提出し情報を伝え、病院の相談員や看護師とも連携を図り、家族とも相談し早期の退院に努めている。退院時には看護サマリーを依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の対応について家族に説明、意向の確認をしている。医師から終末期の診断がされた場合は家族に再確認を行い看取りの介護計画を立て最期まで本人や家族の意向に添った暮らしとなるよう検討・支援している	入居時に終末期に向けた指針を基に事業所として対応可能なことを説明し、利用者の状態が進んだ際に改めて医師から家族に説明してもらい意向を確認しています。医師や職員、家族と話し合い看取り支援の体制を整え、医師や看護師から助言をもらい家族からも面会や宿泊等の協力を得ながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は内部研修にて学ぶ機会がある。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回のうち1回は消防署の協力の下、避難訓練を行い、運営推進会議にて報告、地域との連携について検討している。地域の防災訓練に職員が参加し、水や缶詰、乾パン等を備蓄している。	年2回いずれも昼を想定し内1回は消防署立会いの下で利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施しています。運営推進会議で訓練実施の報告を行い、地域の消防訓練に職員が参加しています。水や缶詰、コンロや持ち出し袋等の備蓄をしています。	職員の人数が少なくなる夜間帯の災害発生を想定した訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する法人内研修を受講した職員が、ミーティング等を通じて伝達し周知している。丁寧な言葉遣いを意識し不適切な言葉かけがみられた場合は管理者が注意したり会議等で伝える機会を持っている。	年1回法人の接遇等に関する研修を職員代表が受け、事業所で内容を伝達し知識を身に付けています。苗字での声かけを基本とし、利用者は目上の方でありお客様であることを意識しながら丁寧な言葉かけに努め、不適切な言葉かけや対応があればその都度注意しています。入浴や排泄時は利用者の希望に添って同性介助に対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定しやすいように個々に合わせて選択肢を準備し、自己決定出来るように努めている。また本人が思いや希望を表した時には個人記録にて情報を共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしのペース、希望に沿い、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は月1回の理美容を受ける体制が整っている。洋服についてはご家族に準備して頂き、衣替えの協力も頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回ランチ外出かホームパーティーを行い、ご家族全員にも参加を呼び掛けている。ホームパーティーではご利用者や家族にも一緒に準備をして頂いている。日々の下膳やお盆拭き等のご利用者や職員と一緒にやっている。	昼は業者を利用し朝夕の献立は利用者の希望を聞きバランスも考慮して立て、利用者も配膳等出来る事に携わりながら事業所で作り時には職員も一緒に食べています。月1回は家族を招いて昼食を食べに外出したり、冬場の寒い時期は事業所でホームパーティを開催して季節の食事を作る他、ケーキやたこ焼き等のおやつを手作りする等、食べることが楽しみなものとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックし、個人記録に記入している。月1回体重測定を行い、体重の増減を把握している。糖尿病の方はご家族と相談し毎食食糖病食としたりおやつを欠食としている。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っている。自力で磨いて頂いた後に仕上げを行う方もいる。口腔ティッシュや舌ブラシ、歯間ブラシ等を使用したり歯科よりアドバイスを頂いたり一人ひとりに合ったケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るように下肢筋力低下予防にも努めている。排泄表を使用し個々に合わせた声掛けや介助を行っている。くつつくタイプの使用を導入して自身でのパンツの上げ下げをしやすくする等の支援もしている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者個々に排泄の記録を取り排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや案内を行っています。入院時におむつを使用していた利用者に排泄支援を継続することで紙パンツで過ごせるようになる等排泄状況が改善した利用者もいます。職員間で利用者に応じた排泄支援の方法や排泄用品を検討し、自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を提供し、散歩や排泄時の腹部マッサージも行っている。また水分補給にも努め、夏はお茶ゼリーを作って対応したり牛乳やヨーグルトの提供も積極的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上を目途に週6日開催している。浴室は床暖房を、脱衣室にはエアコンを設置し気温差にも注意を払っている。ゆず湯や夫婦一緒に入浴される方もいらっしゃる。	週3回以上を目安に午後の時間帯を基本に入浴してもらい、利用者の希望に応じて回数を増やすことも可能です。入浴拒否が見られる場合は、日時を変えたり声をかける職員を代える等工夫して無理なく入浴してもらっています。好みのシャンプーの持ち込みも可能で、ゆず湯を行う等、一人ずつゆっくりと入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の寝具を使い、週1回洗濯して清潔を保持し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在全員が往診対応となったが、往診時には薬剤師も同席されるため、薬について相談したりアドバイスを頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報である生活歴や本人の希望や生活の観察により楽しみごとや嗜好品を把握し、個別ケアを行い提供するよう支援を行っている。		

グループホームリエゾン萌木の村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブがお好きな方やドライブによって気分転換される方が多いため、その日に決定し出かけることも多い。ドライブに出掛けておやつを食べたり買い物をしたり、またご家族に本人の希望を伝え対応いただく事もある。	利用者の希望に応じて日々散歩や買い物に外出するように努めています。季節に合わせて梅や桜の花見や冬のイルミネーションを観に出掛けたり、毎月家族も招いて全体で外食に行く等、出来る限り外出の機会を作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員を対象として、おこずかいとして1万円程度預かっている。自身で財布やお金を持ちたい方には持っていたいでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を居室に置き自身で電話をされる方が1名。年賀状を書きたいとおっしゃり漢字を聞いてこられた時など対応。完成品はご家族にお渡しさせて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じソファやテーブル、椅子の位置を変更したり日々掃除や換気を行い、加湿器や温湿度計を置き快適に過ごせる共用空間作りに配慮しています。	共用空間に毎月利用者と職員で貼り絵を作って飾り付けを行ったり、観葉植物を置き温かい雰囲気を作っています。利用者同士の相性に配慮して机や椅子を配置し、温度計を設置して利用者の体感も考慮して室温調整をしています。毎日清掃を行い、利用者は折り紙を折ったり風船バレーやカラオケ等を楽しみながら快適に過ごせる共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設けたり、隣の和室も自由に使って頂いて思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や寝具を持ち込んで頂いている。家族と相談しながら安全に動けるよう配置換えを行うこともある。また家族の写真や遺影、本、トランプ等も置いて頂き居心地よく過ごせるよう配慮している。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、テレビや机、棚等の持参したものを家族と職員で相談して配置し、入居後の生活を見て変更することもあります。遺影や家族の写真を飾り人形などの大切な物を傍に置き、携帯電話や雑誌等を持ち込み楽しんでいる利用者もいます。掃除や換気をこまめに実施し、快適にその人らしく過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり安全に自立した生活が送れるよう工夫し、問題発生時には検討し改善している。		